

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	キノコみらいハウス設置委員会
現在の主な活動 内容・活動実績	青葉台1丁目自治会として、子供の見守り活動、防災訓練、焼き芋会など行事。公園愛護会として、青葉台公園の週1回の清掃、花植え活動。NPOとボランティアによる、月1回の子ども食堂開催。AS輪組の学校トイレアート活動。
提案場所	青葉区青葉台1丁目
提案名 (25字以内)	青葉台公園の多世代交流・多文化共生の拠点作り
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	青葉台公園敷地の一部に、建物面積30㎡の集会所（兼休憩所）を建設整備し、公園を訪れる皆さんが気軽に利用したいと思えるトイレ、自然に囲まれたオープンスペースで多世代・多文化交流できる（フリートークできる）テラスを併設したい。名称：「キノコみらいハウス」 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	①あらゆる世代が気楽に立ち寄れるサロン（おしゃべり会）をつくる。子連れの方やご高齢者、移動支援を必要とする方の送迎システムを独自に構築する。②地震対策本部として住民や近隣で働く人等の「いっとき避難所」として活用する。③小・中学生の放課後支援（自習室として開放）④多世代交流：高齢者のボランティアによる学習支援、不登校児童の学習支援及び日本の伝統的な遊び（竹とんぼや紙飛行機等）を地域の子ども達に継承していく。⑤公園を訪れた方へのトイレ利用、子連れの方等の休憩所、おむつ替え等。⑥外国人のための交流場所（日本語教室、困ったときの相談室等）⑦環境教育とペロブスカイト太陽電池普及啓発の拠点、地元農家による食と農の講座による地産地消の推進（⑦はSDGsの拠点）
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	①子どもたちの学習室が不足し、居場所に困っている。青葉台1丁目には地区センター、コミュニティハウス等の公共施設もない。②単身世帯・高齢者のみの世帯が増え、他者との交流が減り、外出機会も減少している。③多世代交流、多文化交流できる施設がなく、外国人との交流の場や外国人の暮らしを支える場がない。④伝統文化の継承の場がない。継承の場を通じて、多世代交流や高齢者活躍、次世代育成につながる。⑤青葉台駅では桐蔭横浜大学の「ペロブスカイト太陽電池」実証実験が行われ、地域に次世代エネルギーへの関心が高まっている。「エネルギー教育」推進の場として期待できる。「地産地消」推進のきっかけづくり（SDGs拠点）⑥公園にトイレがなく困っている声があるため、トイレ設置。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にした	これまで青葉台1丁目が課題としてきた、地域住民の顔の見える関係性の構築、子ども達から高齢者、国籍関係なく、孤立しないコミュニティの構築。キノコハウスが地域住民にとって、「安心して過ごせる居場所」となり、さらには住民主体でキノコハウスを活用した、自主イベントが盛んに行われる

いと考えますか)	ような機運が醸成される。さらに、青葉台1丁目（周辺地域）に関わる、学校や企業、団体もつながりを持って、そこで暮らす人、働く人、そこが好きな人たちが、共に地域コミュニティを創り上げていく。そこに住みたい人、住みたいと思う人が増え、地域活性化がはかれる。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	「ヒト」：キノコ公園で遊ぶ子ども達の保護者、保育園等の地域の学校組織の協力・青葉台1丁目及び隣接町の有志・地元企業の協力・AS輪組の協力（青葉区内学校トイレアート、建築家中野氏）・桐蔭学園トランジションセンター・NPOアフリカヘリテイジコミュニティ・地元農家 「モノ」：整備に必要な材料を安く入手できそう・整備に必要な建築機械を安く借りられそう（区内建設会社、農家、地主等に依頼） 「カネ」：・青葉台1丁目自治会から資金的な支援を得られそう。・クラウドファンディング、バザーなどで資金を集められそう。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）	①災害時における協働：地震対策本部に登録されている20名の住民が主体となって、対策本部設置等に関わる。②外国人支援体制における協働：日本語講師、トニー氏（NPOアフリカヘリテイジコミュニティ代表）、地域の外国語学校等と連携し、外国人住民を対象とした日本語講座等を開催。③不登校児のケアにおける協働：高齢者、大学生、地域ボランティア等と連携し、不登校児童の学習支援を実施。④移動支援における協働：地元のリハビリ運営団体。移動支援を必要とする方のきのこハウスへの送迎を実施。⑤エネルギー教育：桐蔭学園トランジションセンターと連携し、きのこハウスにペロブスカイト太陽電池を設置。地元農家と連携し、食と農に関する講座を実施。⑥きのこハウス運営：始動時は、提案グループメンバーが中心を担うが、ボランティア募集などしスタッフを増員。将来はNPO組織等の設立を目指す。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	*デザイン設計等はAS輪組の協力（一級建築士中野晶子氏、市内小中学校トイレをアート実績多数） *桐蔭学園トランジションセンター、桐蔭横浜大学宮坂研究室による環境教育、ペロブスカイト太陽電池等の実演、実証実験による普及啓発 *スプラス青葉台に隣接。地域企業や大学等との連携も期待できる

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

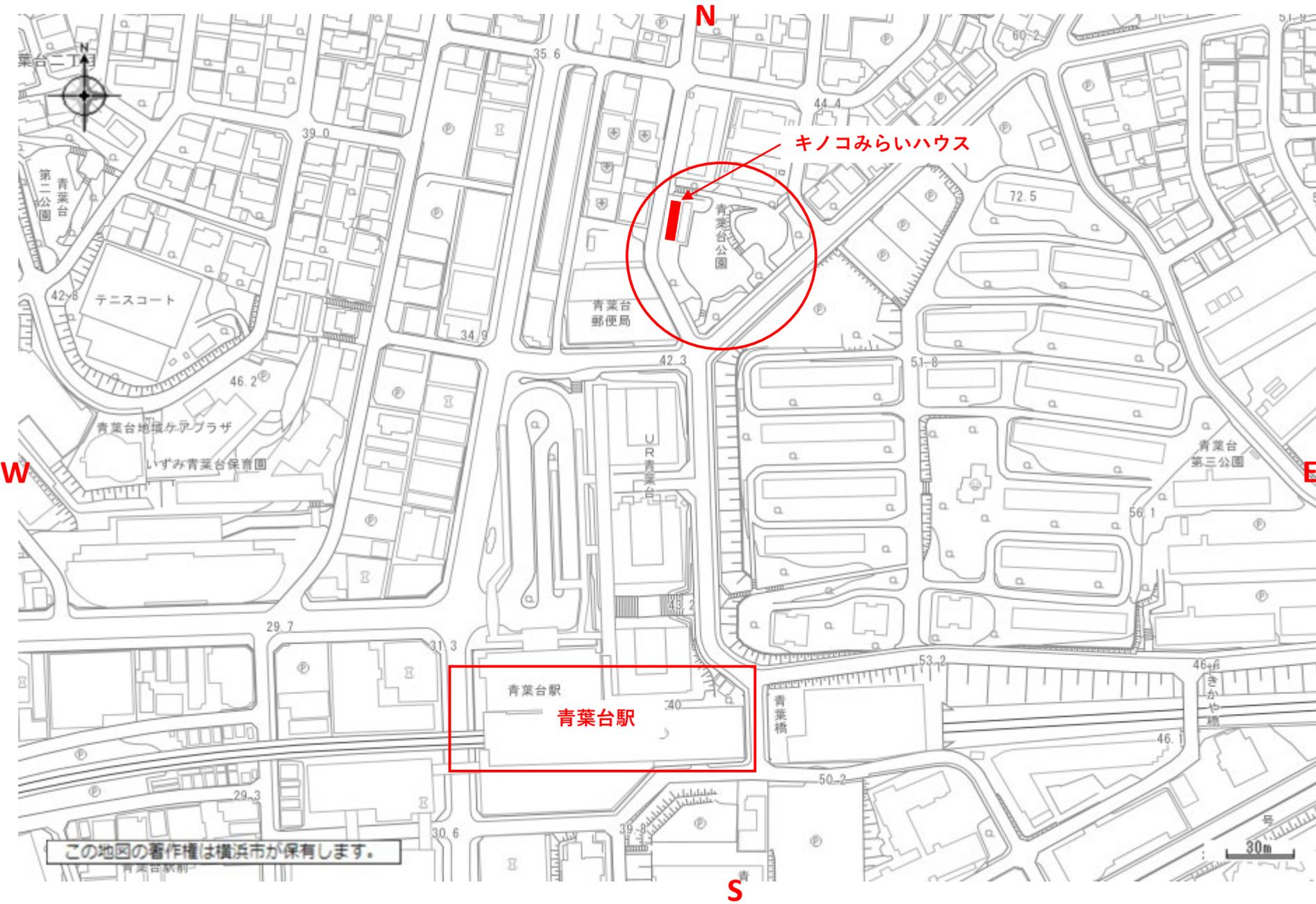
整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
青葉土木事務所	応募することを了解しました。 経過報告をお願いします。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

青葉台公園位置図



現況写真

裏側スペース



整備提案イメージ図

